

別海町郷土資料館だより

No.74・2005・9

別海北矢に移住した木地師たち ～ 惟喬親王像と 木地師文書～

1927（昭和 2）年、福島県から北矢臼別地区に小椋姓をもつ 3 家族が移住してきました。小椋仙太さん、小椋寅太郎さん、小椋熊太さんのご家族です。彼らは代々、お椀やお盆、杯などの円形木器を轆轤（ろくろ）を用いて作る「木地師」（きじし）と呼ばれる職人で、当時青年であった彼らの息子さんたちも既にその技能を身につけていました。

今年 7 月、奥会津地方歴史民俗資料館より木地師についての問い合わせがあり、木地師研究家の金井晃氏が来町されました。別海在住の子孫の方々への聞き取り調査や資料調査の結果、貴重な木地師文書や使用されていた道具などが現存することがわかりました。



上の写真は、小椋貞男さん所蔵の惟喬（これたか）親王夫婦像です。55 代文徳天皇の第一皇子でありながら天皇になれずに隠棲した惟喬親王は、木地師たちに轆轤の発明者として崇められました。残念ながらこの像の製作者や制作年代は不明ですが、現存する他の惟喬親王像と比べても、とても保存状態がよいとのことでした。

左の写真は小椋吉夫さん所蔵の御綸旨（ごりんじ）納め箱で、惟喬親王の伝説を記した「惟喬親王縁起」や、木地師は全国どこの木



を切っても良いとの免許状であると言い伝えられてきた「朱雀天皇綸旨」などの木地師文書がこの中に入っていました。

北矢臼別に移住後、小椋さんたちは開拓農業・酪農に専心し、木地師としての仕事からは遠ざかることになりましたが、その優れた技能を活かして、臼やこね鉢、屋根の葺き板、馬車の木輪などの木製品を村民に請われて製作し、昭和初期の極めて苦しい別海村の人々の生活向上に貢献しました。（文責 戸田博史）

参考文献

- ・福島県田島町教育委員会『木地語り ―会津田島のとびの足跡―企画展報告書』（2001 年）
- ・金井晃「只見町の木地師」『只見町史第 1 巻通史編 1「自然・原始・古代・中世・近世」』（2004 年）
- ・『開拓五十年史 別海町北矢臼別』（1977 年）

ふるさと講座 「コウモリ 観察会」実施報告



7 月 25 日奥行臼駅通所において、根室市歴史と自然の資料館主任学芸員近藤憲久さん（写真中央）を講師にお招きして、コウモリ観察会を行いました。ウサギコウモリはその耳の大きさはダテではないのか（？）、人の気配を察知して出てきませんでした。ホオヒゲコウモリは 10 頭以上が駅通所裏に設置したかすみ網にかかりました。近藤さんのコウモリの生態についての興味深いお話を聞きながら、参加者のみなさんに間近で観察してもらうことができました。（文責 戸田博史）

「加賀家文書」の調査研究から～その18

調査員 戸田 峯雄

7日間もかかって漸く厚岸に辿り着き、ここからは厚岸場所の人たち（5人と通辞）も加わっての通行となる。ここ厚岸には、箱館奉行の配下調役喜多野省吾が配属され、その配下の人が釧路と根室の詰めていたのであった。いわば、根室と釧路の行政の中心が厚岸におかれていた。（絵図～文化年間には国泰寺も建立されていた）

3月10日に厚岸を発ち、仙鳳趾・昆布盛へ泊り、12日には釧路に泊まって、13日からは釧路場所の人たちも加わって出発した。

この後、白糠・尺別・大津・当縁・広尾・音調津へと進んだ。いよいよ「黄金道路」に差し掛かった。まして病気がちであった根室の庄屋仁助（ベツカイ住居58歳）が病気になってしまい、最大の難所の一つであった「エリモ岬」を越えることになる。

3月21日、早朝人足を6人頼み、重助（クン子ベツ名主49歳）を付けて仮の駕籠で仁助を迎えにやった。この日は峠の下に泊ませた。

同22日、人足がいなく、長助（ベツカイ25歳）重助（前記）作蔵（ウエンベツ25歳）の3人が駕籠を担いで猿留峠を登り、所々に残雪が多くあってかなり難儀をした。ホロイズミ会所へ泊まる。

同23日、様似へ泊り、浦河・新冠・沙流・勇払へと進んだ。

同30日、仁助を山駕籠に乗せて、白老・幌別と進んだ。

4月3日、室蘭の旅館へ泊まる。

同4日、室蘭を発ち、（ここで、厚岸の殿様～喜多野様と行き違いになる）さらに進み、有珠で泊まる。

同5日、虻田、礼文華へと進み、（ここからも難所の一つ）水夫のアイヌが来て、出船となった。東風で波が高くなってきたが、礼文華のアイヌは役たらず、根室のアイヌが操船

して、浜へ寄せあげた。ここからまた、作蔵と長助が駕籠を担ぎ、重い荷物を背負って長万部の旅館に着いた。

同7日、仁助を山駕籠に乗せて、山越内の旅館に着いた。翌日、お役所で申し渡があった。これからは和地の道中なので、。関所と同じ、。終ってすぐに発ち、鷲ノ木へ泊まる。同10日、箱館のお店に着いた。（次回は箱館での見分やお目見えの事です）



「箱館」（伝蔵筆『絵本雑録記』より。加賀家文書館蔵）

郷土資料館・加賀家文書館のお知らせ
9月（■は休館日）

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 観覧料 一般個人 300円 一般団体（10名以上）240円
高校生以下は無料となります。

別海町郷土資料館だより No.74

発行日 平成17年9月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.gr.jp

編集後記 小椋姓を有する人はその多くが何らかの形で木地業に関係していたとのことですが、それでは歌手の「小椋佳」はどうかというと、実は本名は神田で、学生時代に福島に勉強のために籠った村の人たちの姓が「小椋」ばかりだったので、それを芸名にしたのだそうです。今回は色々勉強になりました。（戸田博史）